

## 【技術資料】高温 XRD によるセラミックスの熱膨張評価

### 概要

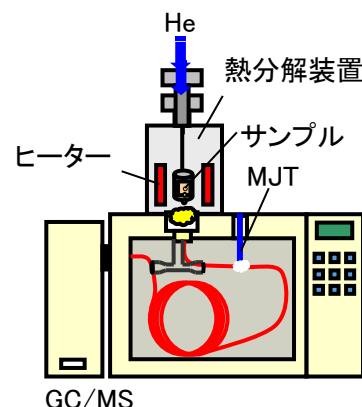
熱分解(Py)-GC/MS は、試料を加熱し、発生ガスや分解生成物を GC/MS に導入する方法です。例えば、ポリマーを構成するモノマーや、ポリマー中の揮発成分の MS による同定が可能です。測定に必要な試料は 1~100 $\mu$ g と微量であり、試料を直接加熱分解するので、溶媒に不溶な試料に対しても有効です。また、マイクロジェット・クライオトラップ(MJT)と組み合わせることで、低沸点化合物を捕集し、揮発拡散を抑えた測定が可能です。

### 熱分解装置の仕様

- ・装置 : フロンティア・ラボ製マルチショット・パイロライザーPY-3030D
- ・温度制御範囲 : 室温+10~700 $^{\circ}$ C(1 $^{\circ}$ C単位)

### MJT の仕様

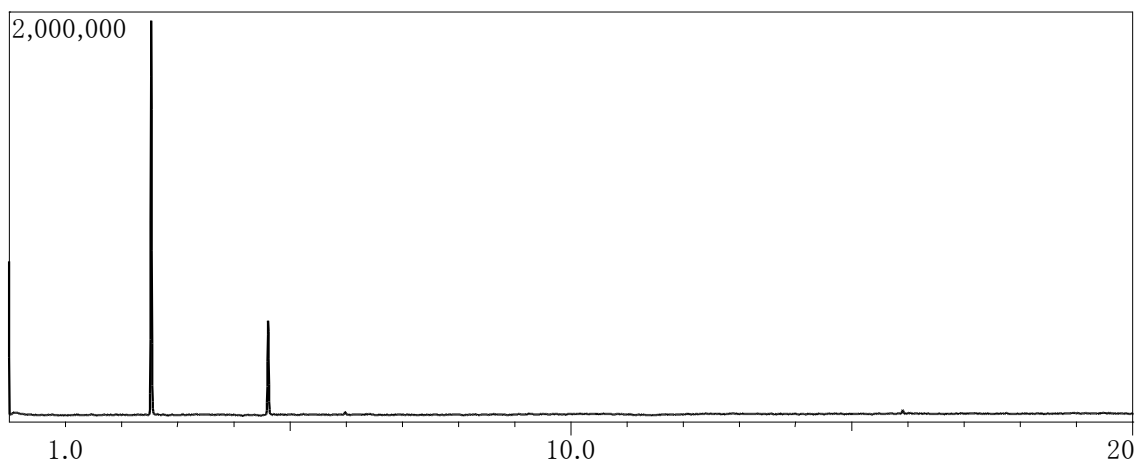
- ・装置 : フロンティア・ラボ製 MJT-1030EX
- ・冷却温度 : 約-180 $^{\circ}$ C 以下  
(窒素ガス流量:7L/min、GC オープン 40 $^{\circ}$ C の場合)



【Fig.1】Py-GC/MS 装置の模式図

### 分析事例

スチレン-メタクリル酸メチル共重合体を分析した例を Fig. 2 に示します。このように、共重合体の分解物の MS スペクトルから、モノマーの定性が可能です。



【Fig.2】スチレン-メタクリル酸メチル共重合体のパイログラム

適用分野 : ポリマーの組成、分子構造、発生ガス

キーワード : プラスチック、ゴム、樹脂、高分子